

プレスリリース

(2008年5月30日)

経済成長率予測を下方修正、一方インフレ予測は急上昇

(シンガポール)

アジア太平洋地域のインフレは、石油と商品価格の高騰により、今年は急激に上昇するものと予想される。代表的な物価指数であるCPIは2007年+2.7%の上昇から、今年は+3.6%の上昇となる。ただ、全体の数字は、幾つかのアジア諸国におけるかなり急激な上昇を隠している。例えば中国では、2008年には全体で6.0%のCPIの上昇が予想されているが、年後半の前年比上昇率は8.0%を超える。インドネシアでも、CPIは11.7%に急上昇することが予想される。東南アジア全体で、CPI上昇率は2007年3.2%から2008年6.2%にほぼ倍増する。

「超低インフレによる力強い成長の時期は終わりに向かっている。通貨の上昇している、アジア太平洋の国・地域でも、高いエネルギー、商品価格の危機を感じ始めている。最近の食糧価格の急騰も役に立たない。実際、それは収入の多くを米や他の食糧に費消している貧窮層に不利な作用をもたらす。」とユエン・パウ・ウー氏(太平洋経済協力会議(PECC)、State of the Region 報告のコーディネータ、カナダアジア太平洋財団会長)は言う。

PECCの2008年第1四半期予測では、米国経済の悲観論の増大により、2008年のアジア太平洋地域の実質GDP成長率予測を、2007年11月発表の4.9%から下方修正し、3.7%成長と見ている。地域は全体として、2009年には反発して4.4%成長になると予測される。

「インフレの昂進と米国信用収縮に対する終息が見合えない中、地域の政策担当者は経済を回復させる政策余地を失いつつある」とウー氏は付け加える。PECC予測は2008年の米国経済成長を2.9%から1%に大幅に引き下げた。しかし、予測で注目すべきは、地域の成長のほとんどが新興国・地域によっており、特に中国は2008年の地域全体の成長のほぼ半分に寄与していると予測される。

「幾つかの国・地域は他よりも減速の影響を受けているが、全般にわたる景気減速はアジア太平洋経済が持続的な相互依存と地域協力の重要性をむしろ明らかにしている」とチャールズ・モリソン氏(PECC議長、東西センター会長)は言う。「貿易と資本の自由な流

れがアジア太平洋地域の高成長をもたらしてきたが、減速期には、このような要因が失われられないことが決定的に重要である。そうではなく、輸出抑制と金融保護主義の強制といった反対の政策手段が見られる。APEC は今週その価値を発揮する機会を得て、リーダーシップを発揮し、システムの信頼性を回復する」と付け加える。

PECC は対外部門が多く、多くの国・地域で成長の抑制要因となるものと予想している（その注目すべき例外として、インドネシア、日本、韓国、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、米国）。しかし、輸出入の増加は 2009 年には回復し、地域は 2008 年後半から米国の回復により成長するだろう。

「財政による景気刺激策は、2008 年後半には徐々に効果を失うものの、米国経済にプラスの影響をもたらすと予測される。」とウー氏は言う。「もし住宅価格の下落が今年の終わりまでに収束していない、あるいは金融部門において想定していない評価損が起きれば、更なる下落スパイラルのリスクが現実のものとなる。我々の予測のリスクは 10 年間で最も高い。」我々の第一四半期経済予測は 16 カ国・地域の PECC パネルからの、2008 年 3 月データに基づくものである。レポートは以下からダウンロードできる。www.pecc.org/sotr レポートのコーディネータはユエン・パウ・ウー氏（カナダアジア太平洋財団会長）。

[担当]

エドアルド・ペドロサ（PECC 国際事務局 事務局長: Eduardo.pedrosa@pecc.org
+65 978 578 14)

ベティ・イプ（PECC 国際事務局: betty.ip@pecc.org +65 6737 9822, Ext 17)

[太平洋経済協力会議]

太平洋経済協力会議（PECC）はアジア太平洋地域の協力と対話の促進を目的とした独立の非政府系国際組織。1980 年設立。PECC は本趣旨に賛同する個人と組織で構成されたメンバー委員会のネットワークである。本組織は APEC プロセスの 3 つの公式オブザーバーの一つである。